



日本リメディアル教育 第6回全国大会  
於:湘南工科大学 20100831

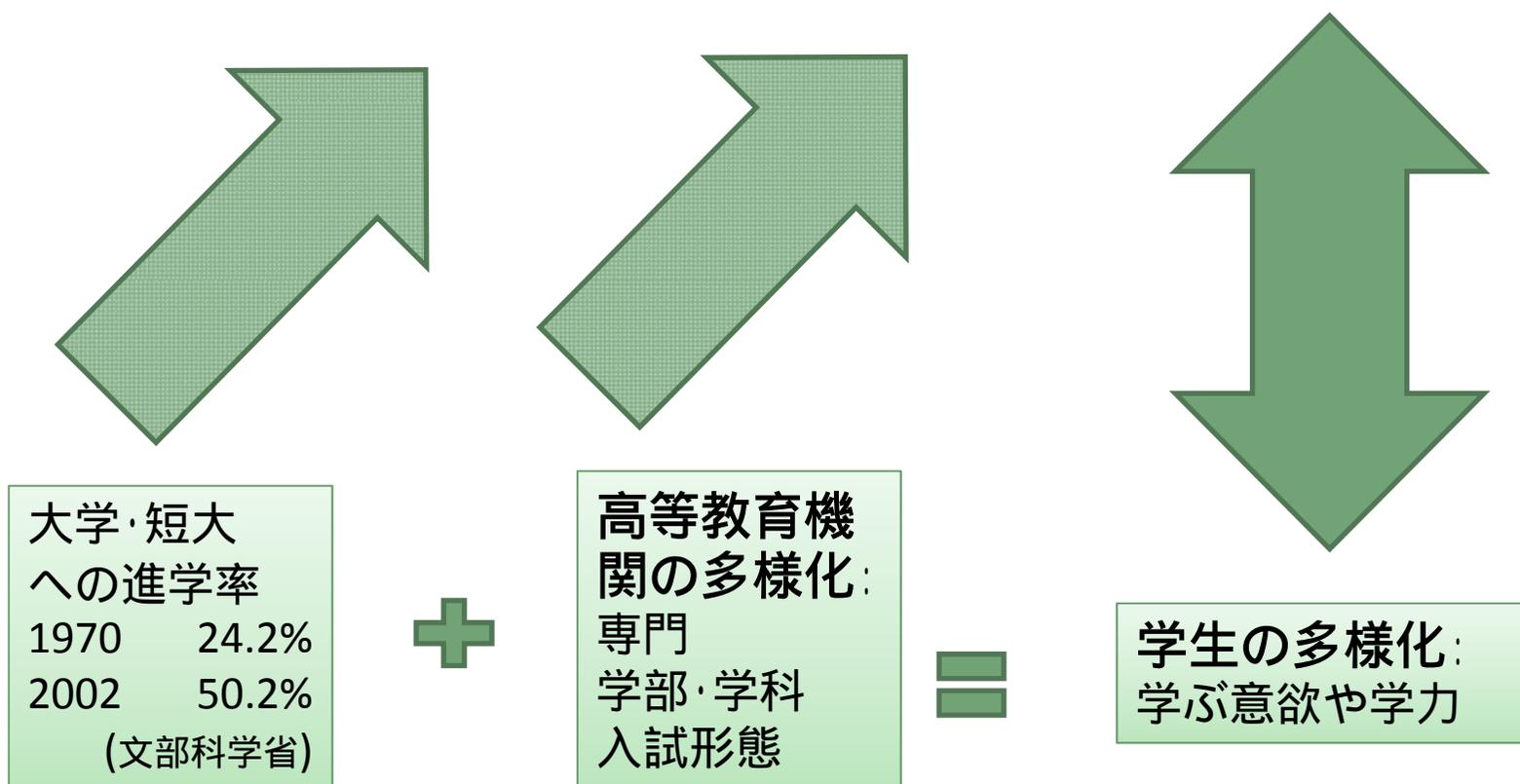
# 学習者がWritingの授業で パラグラフを構成するスキルと 文法力とを自律的に高めるための 教材開発に関する研究2

東郷多津, 田中美和子  
(京都ノートルダム女子大学)

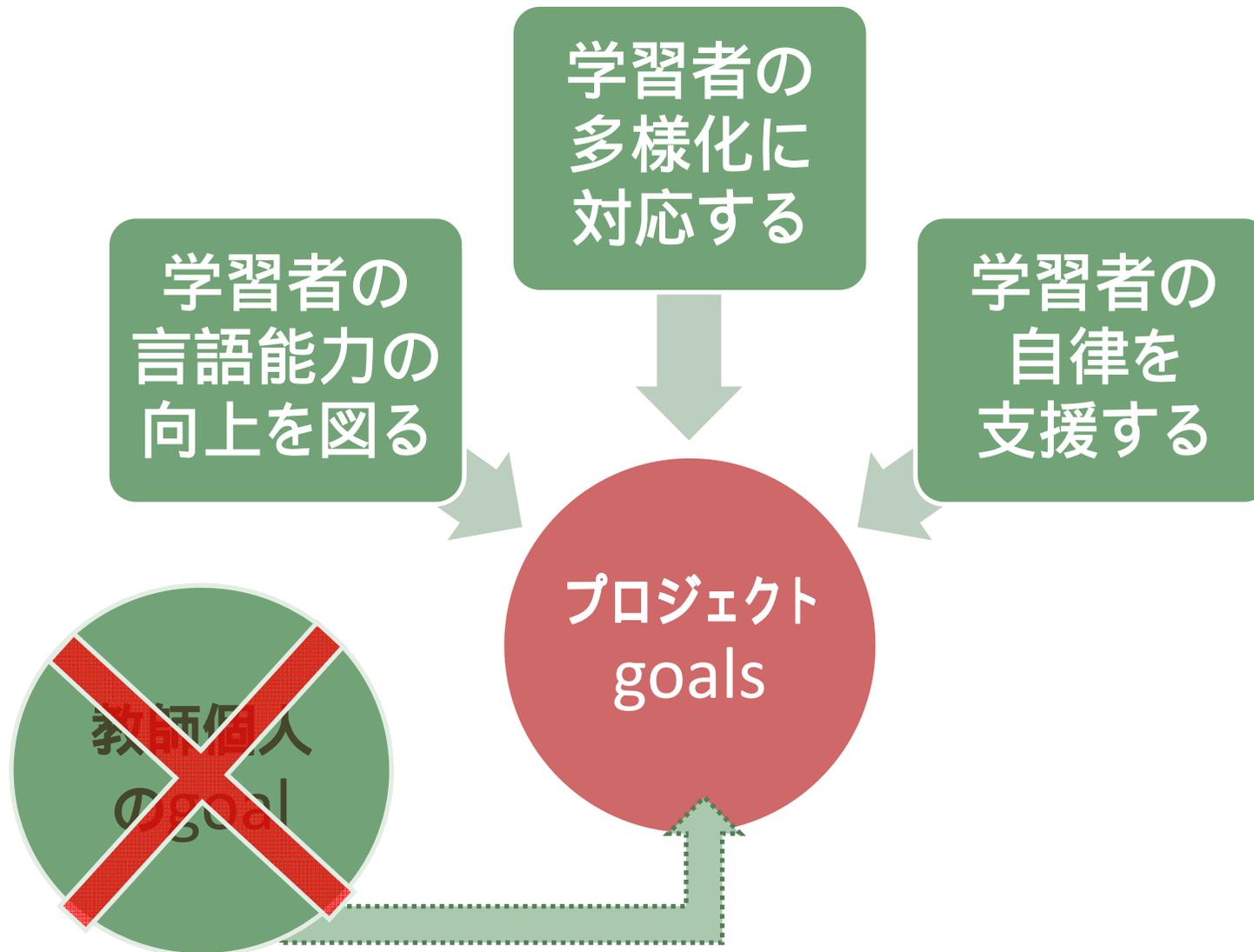


# 1: Introduction 1/3

## 日本における高等教育の傾向



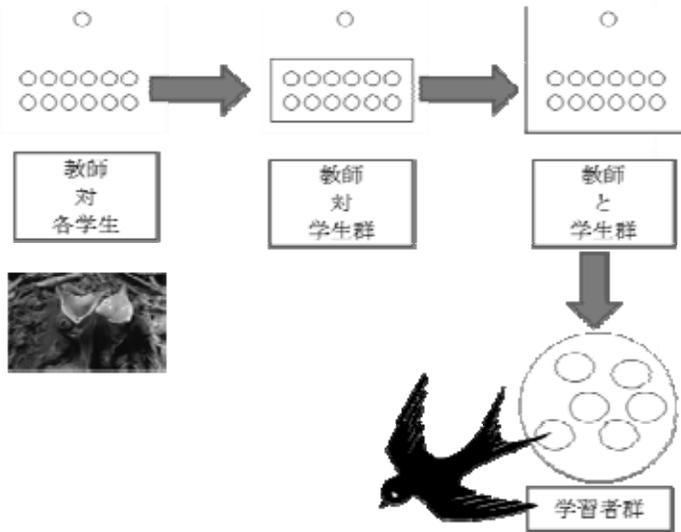
## 2: Introduction 2/3



# 3: Introduction 3/3

## ◆ 教育実践に基づく教材開発 (Nishinosono, et. Al.2007)

### ■ 共通イメージとしてのメタファーの設定



### ■ 学生の実態重視

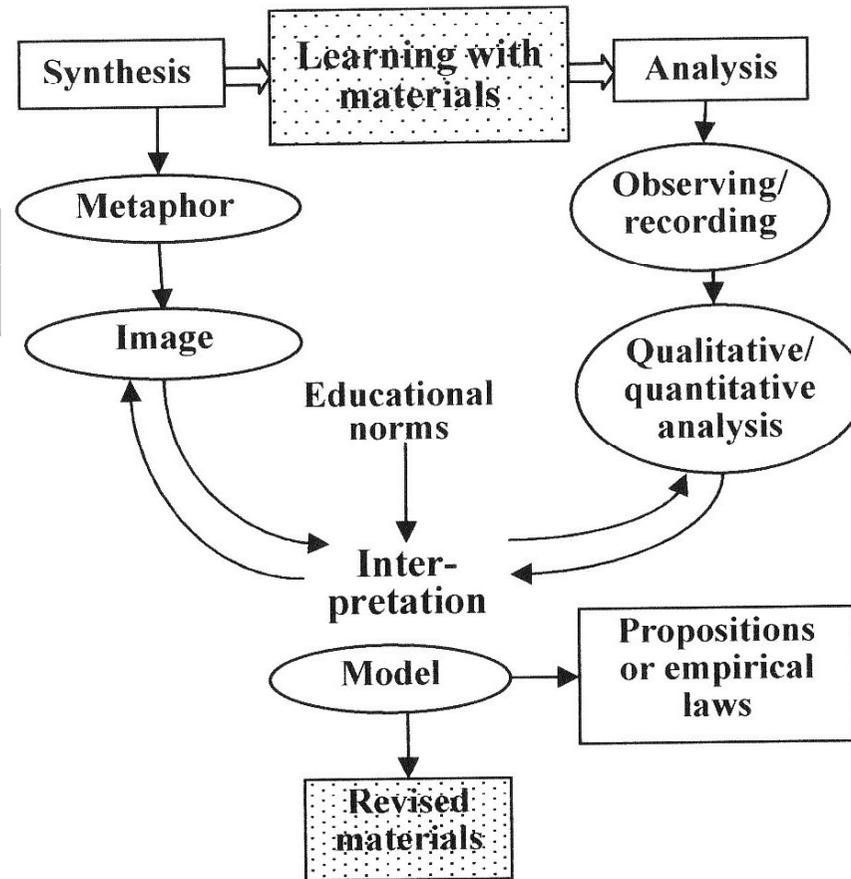
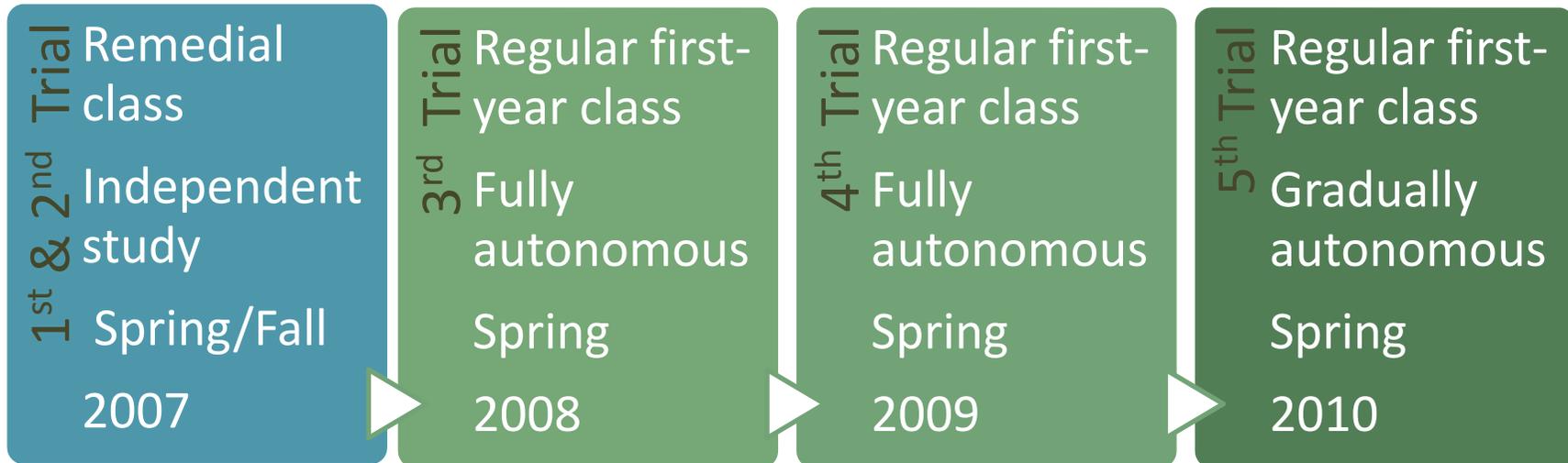


Figure 1 Empirical procedure for development

# 4: これまでの開発授業



フレームワーク作成

一般クラスへ適用

形式や文法強化

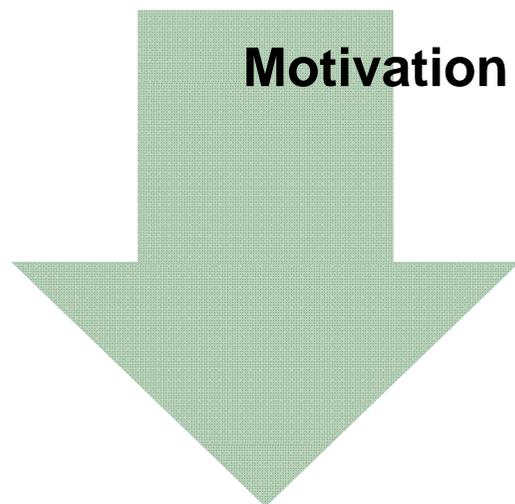
内容強化

## 5: 2009年 結果



学習資材の強化が  
英作文の正確さと  
構成と内容の改善  
につながった

**BUT**



学習資材の多さが  
創造力と英作文を  
書く意欲の低下を  
引き起こした

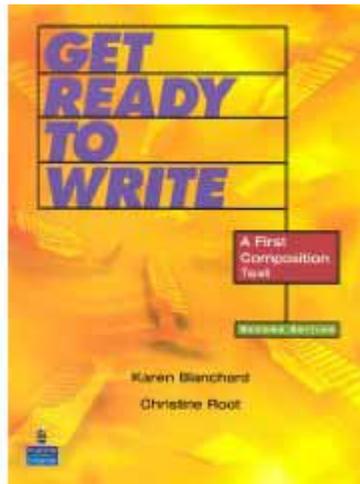
# 6: 研究の対象

A大学

英語を専攻しない学部の1回生 A・Bクラス(59人)

必修科目『英語 WRITING』 再履修生8人

普通教室での授業 (Lower Proficiency)



**Get Ready to Write:**

**A First Composition Text  
(2nd Edition)**

Karen Blanchard (著),

Christine Root (著)

**Pearson Longman**

## 7: 授業の目標

- この授業では、**自律的に学びながら**英語で自分の意見を発信できるようになることを目指します。最終的には学生の**自律的な学び**を目指します。

### 「自律学習」とは:

自分でテーマを見つけることができる。  
テーマのための計画を立て、その計画を実行することができる  
問題が起きたら、それに対処することができる  
自分で評価をすることができる

# 8: 2010年度の授業

前期授業  
終了

教科書を基本とするハンドアウトを用いた  
講義式指導

+ 自律学習プレスト(マインドマップ)

教師中心

学習者による  
評価基準作成  
(教師が指導)

学習者中心

協調自律学習  
自律学習

前期授業  
開始

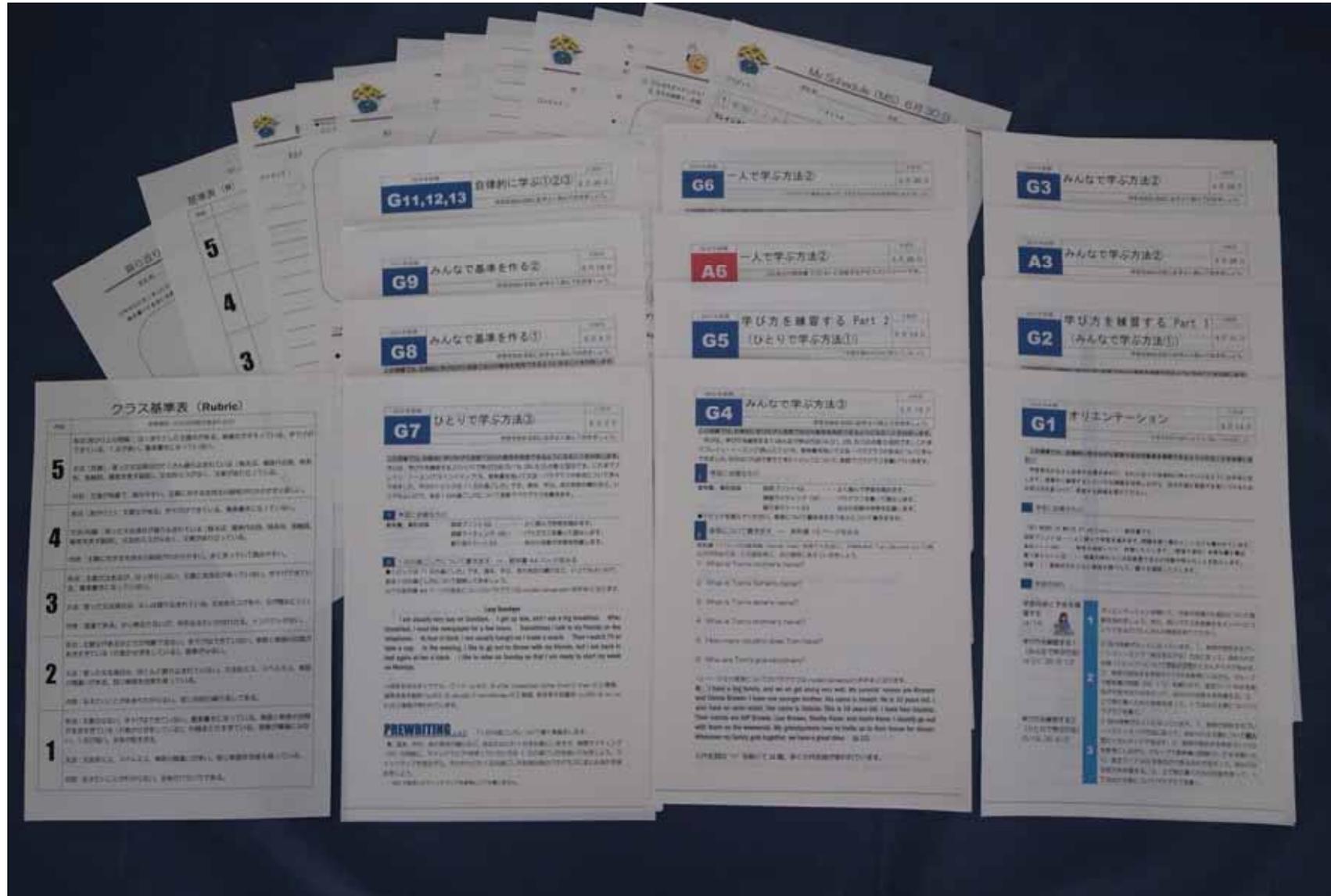
● 教師中心

教科書を基本とするハンドアウトを用いた  
講義式指導

+ 協調自律学習: プレスト (旅人café)

自律を学ぶ

# 9: 2010年 学習教材



# 10-1: 1<sup>st</sup> Class :オリエンテーション

- PPTを使った説明
  - 英語の授業の必要性
  - 学習に必要なもの
  - 当該授業の目標と、学習の流れ
  - 最終評価について説明する
- アイスブレイキング・アクティビティ

「誕生日順に並ぼう！」 & 自己紹介  
チーム作り

クラスメート一覧シート



## 10-2: 学習の流れ

1	2	3	4	5
4月14日	4月21日	4月28日	5月12日	5月19日
Orientation	1 <sup>st</sup> SET- 1	1 <sup>st</sup> SET- 2	1 <sup>st</sup> SET- 3	2 <sup>nd</sup> SET- 1
Icebreaker	旅人café	Grammar	Writing/ Review	Mind-map

6	7	8	9	10
5月26日	6月2日	6月9日	6月16日	6月23日
2 <sup>nd</sup> SET- 2	2 <sup>nd</sup> SET- 3	3 <sup>rd</sup> SET- 1	3 <sup>rd</sup> SET- 2	3 <sup>rd</sup> SET- 3
Grammar	Writing/ Review	班ごとの基準	クラスの基準	Self- assessment

11	12	13	14	15
6月30日	7月7日	7月14日	7月21日	7月28日
4 <sup>th</sup> SET- 1	4 <sup>th</sup> SET- 2	4 <sup>th</sup> SET -3	5 <sup>th</sup> SET- 1	5 <sup>th</sup> SET- 2
open	open	open	Final Writing/ Peer-review	Final Writing/ Self- assessment

# 11: 1<sup>st</sup> SET 学び方を練習する

目標: みんなで学ぶ方法を習得して、英語のパラグラフを書く

2<sup>nd</sup> Class ブレーンストーミング「旅人café」

香取一昭, 大川恒. (2009) 『ワールドカフェをやるう!』

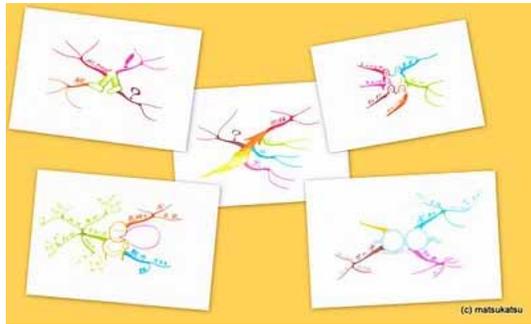
3<sup>rd</sup> Class 英文法やパラグラフの形式の学習

4<sup>th</sup> Class 1<sup>st</sup>セットで得た知識を用いた英作文  
「家族・友達(トピック)」



# 12: 2<sup>nd</sup> Set 学び方を練習する

- 目標: ひとりで学ぶ方法を習得して、英語の  
パラグラフを書く
  - 5<sup>th</sup> Class ブレーンストーミング『マインドマップ』  
ブザン・ワールド・ジャパン株式会社
  - 6<sup>th</sup> Class 英文法やパラグラフの形式の学習
  - 7<sup>th</sup> Class 2<sup>nd</sup> Setで得た知識を用いた英作文  
「一日の過ごし方(トピック)」



(出典: <http://www.matsukatsu.com/books>  
20100324 retrieved)



## 13: 3<sup>rd</sup> Set みんなで基準を作る

- 目標: みんなで協力して英語のパラグラフを評価する基準を作る (西岡、2008)
  - 8<sup>th</sup> Class 班ごとの基準作成
  - 9<sup>th</sup> Class クラスの基準作成
  - 10<sup>th</sup> Class これまでに書いたパラグラフの自己評価と修正およびピア・レビュー



# 14-1: 4<sup>th</sup> SET 自律的に学ぶ

目標: これまでに体験した方法を応用して、自由なトピックで、英語のパラグラフを書いてみる

授業メタファー「巣立ち」→ツバメが巣を離れて飛び立つイメージ

自分でMy Schedule(計画表)を作成する

例: 11<sup>st</sup> Class

12<sup>rd</sup> Class

13<sup>th</sup> Class

ブレインストーミング... トピックの決定・内容の充実

プレライティング... 内容の調査、語彙・表現の学習

ライティング... 「クラス基準表」で自己査定、友達のコメント

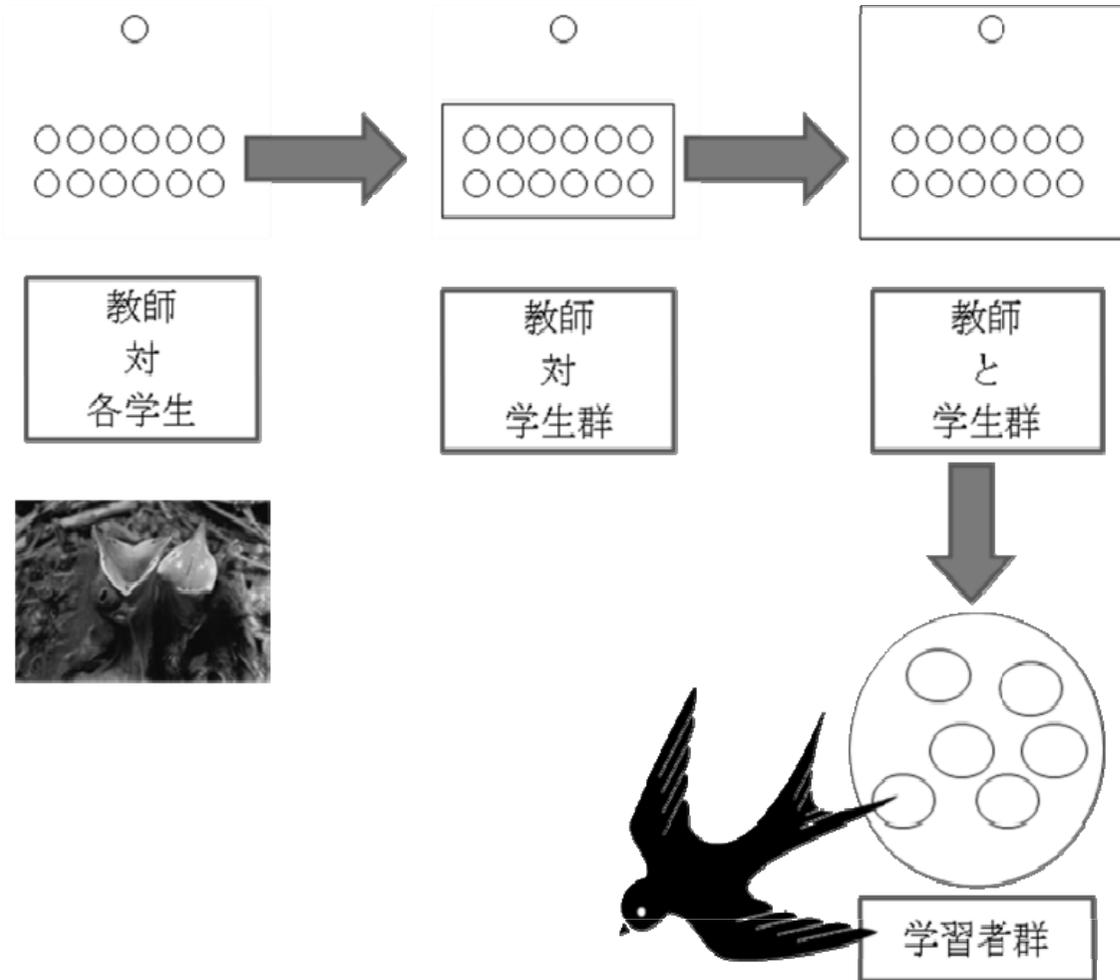


# 授業メタファー

## 14-2: 「巣立ち」→ツバメが巣を離れて飛び立つイメージ

### 教師主導

- 1 オリエンテーション
- 2 みんなで学ぶ方法
- 3 ひとりで学ぶ方法
- 4 みんなで基準を作る



### 学習者主導

- 5 自律的に学ぶ
- 6 最終ライティング

# 15-1: 5<sup>th</sup> SET 最終ライティング

目標: 自律的に自由なトピックで英語のパラグラフを書く

14<sup>th</sup> Class ライティング

15<sup>th</sup> Class ライティング+ 評価と総合的な振り返り

評価... 自分の成績を自分自身で計算する

振り返り... 前期の総評、自分の点数について振り返って感想を

## 計算方法

振り返りシート( )枚 × 1点 → ( )点

ポートフォリオ(課題ライティング)( )枚 × 10点 → ( )点

レビューシート( )枚 × 5点 → ( )点 上限15点

最終課題 評価( ) → ( )点

**Cf: 評価1(10), 2(15), 3(20), 4(25), 5(30)**

自分の予想点 合計( )点

## 15-2 . 成績の計算方法

点数	内容
15点	<b>授業参加点</b> (振り返りシートの記入まで含みます)
30点	<b>ポートフォリオ3回</b> : 遅れて出した場合は各回5点 (英作文と学習についての振り返りシートを4、7、13回授業時に提出する)
15点	<b>レビュー</b> : 1枚5点、1枚以上3枚以下 (8回目の授業で他の人のパラグラフを読んでシートを書く)
40点	<b>最終課題</b> : 5段階ルーブリックによる自己査定(最高30点) 5 - 30点 2 - 15点 4 - 25点 1 - 10点 3 - 20点 教師裁量 -10 ~ +10点 ルーブリックの基準と最終課題の自己査定が著しくかけ離れていると、複数の教師が判断した場合は、適正な査定(1~5)に差し戻します。

# 16: 結果

## 2008年

- 自律, 満足感高 内容の多様性有 but 文法, 英文構造ミス多

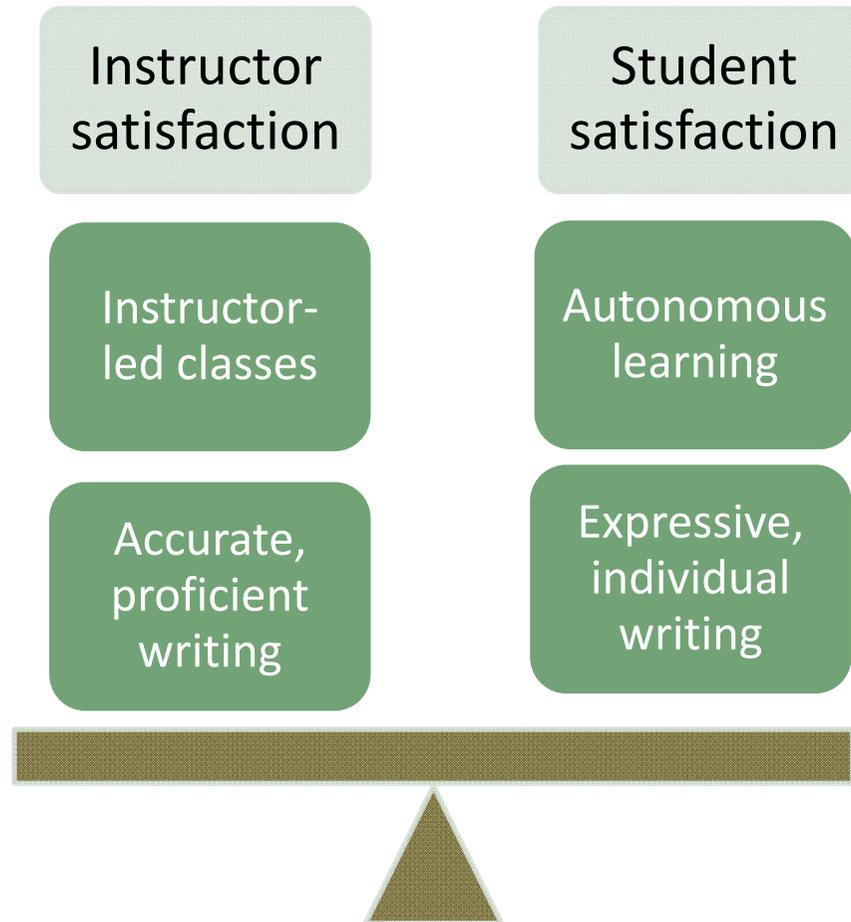
## 2009年

- 自律, 授業および教材改善により文法, 英文構造は改善 but 内容の画一化, 士気低

## 2010年前期

- 自律(低→?), 満足感中, 内容の多様性有 but 文法, 英文構造ややミス有

# 17: 考察



学習者の自律と英語学習に対する意識を確認しながら、教材と学習者の満足感の効果的なバランスを求めるためには、さらなる教材を含めた授業改善を行う必要がある。

# 18: 参考文献

## 参考文献

香取一昭, 大川恒. (2009) 『ワールドカフェをやるう!』 日本経済新聞出版社

東郷多津, 田中美和子, Singer Jane. (2009) 『学習者がWritingの授業でパラ  
グラフを構成するスキルと文法力とを自律的に高めるための教材開発に  
関する研究』 中部地区英語教育学会静岡大会、常葉学園大学、2009年6  
月28日

トニー・ブザン.(神田昌典 訳) 『ザ・マインドマップ』 ダイヤモンド社

西岡加名恵.(2008) 『逆向き設計で確かな学力を保障する』 明治図書

西之園晴夫編. (2004) 『教育の方法と技術』 ミネルヴァ書房

Nishijima Hisao, Hayashi Keiko, Masaki Michiko, Kinshi Kayoko, Kuru Yukiko  
(2007) "Developing a Writing Rubric for Classroom Use in Japanese Higher  
Education", *Jacet Journal* No.45, The Japan Association of College English  
Teachers, pp.109-116.

Singer Jane, Togo Tazu, Mochizuki Shiho, Tanaka Miwako (2010) "Applying an  
Autonomous Learning Approach to an English Academic Writing Course",  
立命館大学言語教育研究, 2010, Vol.26-3, pp.209-219